説教要旨　「あなたの器をからっぽにして」

ルカによる福音書１１章３７～４４節

イエス様が、あるファリサイ派の人の家に招かれて食事の席に着いた時のことが語られています。そこで食事の席に着くに際して、イエス様が身を清めなかったことを、その場にいたあるファリサイ派の人が不審に思ったというのです。具体的には手を洗わなかったということです。ファリサイ派というのは、当時のユダヤ教において、神さまの掟である律法を厳格に守ることによって、清く正しい者であろうとする人々でした。神さまの教えを宣べ伝えているはずのイエス様が、手を洗いもせず、清くあることに無頓着に食事の席に着いたことに驚いたのです。

イエス様はそんなファリサイ派の人の様子を見て、「あなたたちファリサイ派の人々は不幸だ。」（42 節）と言われました。そして彼らが、自分の清さ、正しさを求めることによって、神様よりも自分の栄光を追い求め、人よりも立派な者になることに誇りと喜びを見出すような生き方に陥っていることを指摘するのです。自分の清さ正しさを量り、それをいつも他の人と見比べながら、誇ったり落ち込んだりという一喜一憂を繰り返すことになります。苦しい修行に耐えて生きることが正しい者の姿として、自分はこんなに苦しい修行を積んで正しい者として生きている、という誇りと自負が生まれます。それに比べてあの人はだらしがない、という他人への批判や軽蔑がそこに生まれてしまうのです。

自らの汚れに目を向けず、周囲の人の汚ればかりが目に付いてしまう私たちではないでしょうか。しかし本当に目を向けるべき汚れは私の内側にこそあるのです。私たちの清いか汚れているか、正しいのか過ちを犯しているのかは神さまがすべてご存じです。私たち人間が神さまに成り代わって、自分は清いだとかあの人は汚れているなどと断じることなどできないのです。

自分の器に清さを溜め込もうとするのでなく、むしろ器をからっぽにして、神様の恵みに拠り頼み、自分に与えられたものを感謝して用いていくところにこそ、神の愛が顕されるのです。

（２０１９・６・３０　説教者：稲垣真実）